

# 地 図

## 1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称		教科書名
2	東 書	新しい社会科地図
46	帝 国	楽しく学ぶ 小学生の地図帳

## 2 教科書の調査研究における観点、視点及び調査方法

観点		視点	方法
(ア)	基礎・基本の定着	① 題材や活動の取扱い・説明の仕方の工夫	地図の見方の記載例
		② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例
		③ 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫	環境、国際理解等の学習への活用
(イ)	学習方法の工夫	④ 興味・関心を高めるための工夫	興味・関心を高めるための記載例
		⑤ 見通しを立てたり、振り返ったりする学習のための構成上の工夫	作業的・体験的な学習課題の例
(ウ)	内容の構成・配列・分量	⑥ 単元・題材や資料等の配列	統計資料及び地図の扱い
(エ)	内容の表現・表記	⑦ 学習内容との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用	資料等の活用方法の記載
(オ)	言語活動の充実	⑧ 観察・調査や各種資料の活用の工夫	地図を活用した調べ方の事例
		⑨ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫	地図を活用した表現の事例

<b>観点</b>	(ア) 基礎・基本の定着
<b>視点</b>	①題材や活動の取扱い・説明の仕方の工夫
<b>方法</b>	地図の見方の記載例

<b>東書</b>	○ 読図に関しては、『地図のなぞとき』の中で「地図のやくそく1—5」として、地図記号、方位記号、縮尺、等高線、土地利用、さくいんなどについて説明している。その後、「知りたいことを調べるには?」「日本の47都道府県を地図でたしかめよう」を例示している。(5)
<b>帝国</b>	○ 読図に関しては、『地図のやくそくごと』のなかで「地図を読むときのやくそくごとを知ろう」として、方位、縮尺、等高線について説明し、その後、『地図帳の使い方①—③』で具体的な活用の仕方を例示している。(8)

『 』は主題名、「 」は項目名、( )は使用ページ数

<b>観点</b>	(ア) 基礎・基本の定着
<b>視点</b>	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
<b>方法</b>	国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例

<b>東書</b>	○ 『日本とそのまわりの国と地域』で近隣諸国や地理的環境を表記している。また、各地方地図の中に主要都市や特色ある地形の鳥瞰図(絵)や拡大図を掲載している。 ○ 『むかしの国』で明治元年当時の名称と現在の都道府県名、また『主な歴史の舞台』として歴史的地名やできごとの位置を図で示している。 ○ 各地方図には、歴史的事象・建造物等を地図上に青地に白抜き文字や絵で掲載している。
<b>帝国</b>	○ 『宇宙からながめた日本列島』や『日本とそのまわり』で近隣諸国や地理的環境を表している。また、各地方図においては、特色ある地形について拡大図で例示している。 ○ 地方図において、近隣地域も一緒に掲載している。 ○ 『日本の歴史』の「②むかしの境界」で明治元年当時の名称を、また、「①日本の歴史とのおもなできごと」では年表とともに、主なできごとについて各地方地図中の頁数も掲載している。

<b>観点</b>	(ア) 基礎・基本の定着
<b>視点</b>	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫
<b>方法</b>	環境、国際理解等の学習への活用

<b>東書</b>	○ 巻末の『世界の国々』で世界の国々の国旗を、また、世界の各地方図では、物産や建物・地形等の特色をイラストや写真等で紹介して、国際理解学習に対応した資料を掲載している。 ○ 主題図(各地方図)に環境保全に関する、世界遺産・ラムサール条約登録湿地などを記号で示している。
<b>帝国</b>	○ 巻末の『世界の国々』で民族衣装・あいさつの言葉、また、世界の各地方図は大きくし、そのなかに地域の国旗・特色をイラストや写真等を掲載して、国際理解学習に対応した資料を掲載している。 ○ 巻末近くに、「世界の自然環境と地球温暖化」に関する資料を掲載している。

<b>観点</b>	(イ) 学習方法の工夫
<b>視点</b>	④興味・関心を高めるための工夫
<b>方法</b>	興味・関心を高めるための記載例

<b>東書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『日本の地いき別の地図』では47都道府県の「おくにじまん」のイラスト、また、「地図のポケット」のコラムで特色ある都道府県のエピソード等を紹介している。</li> <li>○ 『世界の主な大陸と海洋を地図と地球儀で確かめよう』では、六大陸・三大洋の位置関係とともに、虫眼鏡のレンズの中に六大陸の生活の特色等をイラストで示している。</li> </ul>
<b>帝国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全般にわたって、「ヒロシさん・アツミさん」のキャラクターの吹き出しによって、地図の着目点等を紹介している。</li> <li>○ 世界各地図では、『なんでも世界一』『おもな世界遺産』『物語のぶたいとなったところ』や、コーナー写真の位置を地図上に番号で示している。</li> </ul>

<b>観点</b>	(イ) 学習方法の工夫
<b>視点</b>	⑤見通しを立てたり、振り返ったりする学習のための構成上の工夫
<b>方法</b>	作業的・体験的な学習課題の例

<b>東書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全般にわたって「調べてみよう」「地図のポケット」「〇〇で発見」のコラムで、地図を活用するヒントや学習の仕方の例示がある。</li> <li>○ 『地図のなぞとき』の「きよりのはかり方」や「高さを表す」では、自分の歩幅で距離を実測したり、砂を使って地形の様子を実感させたりする資料や写真を掲載している。</li> <li>○ 『日本の47都道府県を地図で確かめよう』では、都道府県パズル・県名当てクイズの例示や、『地図の読み方①～⑩』の「読みとって考えよう」では、地図でたどったり比較したりする等、作業的な学習を例示している。</li> </ul>
<b>帝国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『私たちの地球』の「地球儀の見方・使い方」で、具体的にひもやテープで距離や方位の測り方を掲載している。</li> <li>○ 『調べたことを地図にまとめよう』で、テーマを決めたり調べたりする手順や方法を例示している。</li> <li>○ 『日本の都道府県』の「地図のここに注目しよう」「自分の住む都道府県をさがそう」「都道府県を紹介しよう」のコーナーで、また、全般にわたってファイル絵の『ノートコーナー』で、高速道路や航空路をたどる等、作業的な学習を例示している。</li> </ul>

<b>観点</b>	<b>(ウ) 内容の構成・配列・分量</b>
<b>視点</b>	⑥単元・題材や資料等の配列
<b>方法</b>	統計資料及び地図の扱い

<b>東書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『知りたいことを調べるには?』が、この地図帳の使い方・調べ方を意識した編集（もくじ）になっている。</li> <li>○ 巻頭部に4学年、巻末では5学年と6学年で活用できる主題図を学年順に配列している。</li> <li>○ 日本全国は800万分の1、地方図は200万分の1、大都市周辺部は10万分の1～50万分の1の縮尺で地方図の間に掲載している。</li> <li>○ 世界地図は球体を意識させる図法で掲載している。国際社会を意識した日本と対比させた資料の掲載がある。</li> </ul>
<b>帝国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『もくじ』が、地図の編集内容の構成順になっている。</li> <li>○ 47都道府県と世界の国々の特徴がわかる巻末統計・資料となっている。</li> <li>○ 日本全国は400万分の1、各地方図は100万分の1（北海道地方は200万分の1）、また大都市周辺部は50万分の1に統一されている。</li> <li>○ 日本との結びつきが強い地域の国名の詳しい拡大図を掲載している。</li> </ul>

<b>観点</b>	<b>(エ) 内容の表現・表記</b>
<b>視点</b>	⑦学習内容との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用
<b>方法</b>	資料等の活用方法の記載

<b>東書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『さまざまな地図にチャレンジ』のコーナーの「地図の読み方①-⑩」で、活用順序や方法を例示している。</li> <li>○ 『さくいんの引き方』として活用の仕方を例示し、また、使用目的別に地名等を色分けしている。（掲載数：日本の地名 約2500項目、世界の地名 約200項目）</li> </ul>
<b>帝国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際の写真から絵地図、平面地図へと抽象化する流れを示している。</li> <li>○ 『さくいんの見かた』で、都道府県名と県庁所在地、国名と首都名を色分けで識別し、地名の種類を表す記号を用いている。（掲載数：日本の地名 約1800項目、世界の地名 約300項目）</li> </ul>

<b>観点</b>	(オ) 言語活動の充実
<b>視点</b>	⑧観察・調査や各種資料の活用の工夫
<b>方法</b>	地図を活用した調べ方の事例

<b>東書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『地図のなぞとき』の「地図のやくそく－6」では、さくいんの使い方をまんがで説明し、地名の調べ方を例示している。</li> <li>○ 全般にわたっての「調べてみよう」コーナーで、具体的な観察・調査事例を掲載している。</li> <li>○ 『さまざまな地図にチャレンジ』の「読みとって考えよう」では、比較させる資料や調べる視点を示している。</li> </ul>
<b>帝国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『地図の使い方』で、さくいんの使い方や調べ方を説明し、地名の調べ方を例示している。</li> <li>○ 全般にわたってのファイル絵「ノートコーナー」では、日本の各地図で概念の説明や用語の解説をし、理解を深める視点や調べ方を示している。</li> <li>○ 巻末資料の「ノートコーナー」で、学び方や調べ方等の簡単な作業を指示し、資料活用の仕方を示している。</li> </ul>

<b>観点</b>	(オ) 言語活動の充実
<b>視点</b>	⑨調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫
<b>方法</b>	地図を活用した表現の事例

<b>東書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『さまざまな地図にチャレンジ』では、気候の違いや土地利用、ものの分布などの多様な内容を様々な主題図等で示している。</li> </ul>
<b>帝国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『調べたことを地図にまとめよう』の「地図を使ったまとめかた」では、地図を使ったまとめ方のヒントを示し、実際に児童が作った地図の作品例を掲載している。</li> </ul>